

柿本朝臣人麻呂、新田部皇子に献る歌一首并

せて短歌

二六一番

やすみしし 我が大君 高照らす 日の皇子 し
きいます 大殿の上に ひさかたの 天伝ひ来る
雪じもの 行き通ひつつ いや常世まで

反歌一首

二六二番

矢釣山 木立も見えず 降りまがふ 雪に騒ける
朝樂しも